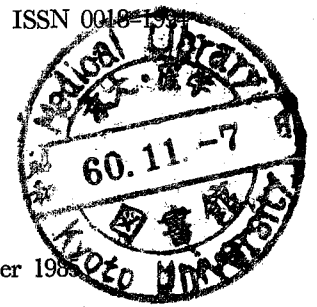


泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.



Vol. 31, No. 10 ACTA UROLOGICA JAPONICA October 1985

泌尿器科紀要

第31巻 第10号 1985年10月

腎移植後尿路合併症	下 在和・ほか	1683
腎盂尿管腫瘍の臨床と病理	川倉 宏一・ほか	1689
女性尿失禁に対する Burch 法の経験	辻本 幸夫・ほか	1695
膀胱腫瘍に対する BCG 注入療法	内田 豊昭・ほか	1701
膀胱癌組織中 carcinoembryonic antigen と血液型抗原の検討	藤岡 知昭・ほか	1709
前立腺癌の軟寒天培養		
一とくに testosterone 添加の影響について	桜本 敏夫・ほか	1717
急性虫垂炎における異常尿所見について(英文)	山本 雅憲・ほか	1723
東海大学病院泌尿器科における尿中分離細菌について		
第3報: 1981~1982年の分離細菌とディスク感受性	岡田 敬司・ほか	1727
東札幌三樹会病院における臨床統計		
(第3報) 1984年度外来新患統計	丹田 均・ほか	1743
東札幌三樹会病院における臨床統計		
(第4報) 開設より5年間余の入院および手術統計	坂 文敏・ほか	1751
副腎 Myelolipoma の1例	田中 重人・ほか	1761
後腹膜腔出血をきたした両側腎血管筋脂肪腫	滝川 浩・ほか	1767
腎外性腎芽腫の1例	内藤 克輔・ほか	1773
腎血管性高血圧に対する Percutaneous Transluminal Angioplasty による非観血的治療	宇佐美道之・ほか	1781
両側性腎細胞癌の1例	原 眞・ほか	1787
腎細胞癌自然破裂の1例	吉貴 達寛・ほか	1793
慢性的な尿管閉塞に起因した自然腎盂外尿溢出現例の検討	神波 照夫・ほか	1801
膀胱癌を含む高次重複癌 —3重複癌の2例と4重複癌の2例—	堀 夏樹・ほか	1807
喘息治療薬 Tranilast による膀胱炎の4例	西田 亨・ほか	1813
Persistent Müllerian Duct Syndrome に Seminoma を合併した1例	森川 満・ほか	1819
睾丸悪性リンパ腫の2例	大西 周平・ほか	1831
副睾丸腫張を主訴としたセミノーマの1例	平澤 精一・ほか	1841
神経因性膀胱に対する Ea-0643 の臨床評価		
—2重盲検比較試験による検討—	村山 和夫・ほか	1845
Ceftizoxime (CZX) の血清および前立腺組織への移行について	藤沢 真・ほか	1855
表在性膀胱癌再発予防の臨床的研究		
—Bleomycin 膀注および Bestatin 併用比較試験成績の各種統計解析による検討—	熊本 悦明・ほか	1861
真菌が関与したと思われる単純性尿路感染症の検討と 5-FC の有用性の評価	鈴木 恵三・玉井 秀亀	1885

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M. D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,

Kyoto University, Kyoto Japan 606

京都大学医学部泌尿器科学教室

禁帯出
到着後 1ヶ月

購読要項 (1983年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料 6,000 円 (送料とも) を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部あて、はがきにて申し込みば所定の用紙を送付します。

投稿規定 (1983年8月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 普通論文の長さは、原則として、刷上り本文7頁(400字×28枚程度)図(Fig)10枚、表(Table)5枚までとする。
 - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプし、年号は西暦とする。
 - (i) 原稿の表紙に標題、所属機関名、著者名の順に和文で併記する。下段に筆頭著者名(山田：または山田・ほか：)と、2語(例：前立腺がん・PSA)からなる running title を付す。
 - (ii) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、5語(英文)以内の Keywords、抄録本文の順にダブルスペースでタイプし、その和訳をつける。
 - (iii) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、Key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、所属機関名、著者名、抄録の順に記した和文抄録を付す。
 - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, µg, %, °C, pH などとする。
 - (5) 図、表、写真などはすべて別紙とし、写真はトリミングする。説明文は一括して記載し和文、英文を問わず Table 1., Fig. 2. などとする。英文が望ましい。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。図・表は誤りのないことを確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい。様式については本誌の図・表を参照する。
- (6) 引用文献は必要最少限にとどめ、引用箇所を本文中に入れる。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文はタイプする。
(例：山田^{1,3,7}, 田中ら^{1,3,7,10}によると)
雑誌の場合—著者名(全員)：題名、雑誌名
巻：最初頁～最終頁、発行年
単行本の場合—著者名(全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年
- (7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。
- (8) 投稿原稿は編集委員会においてその採否を決定し、それに従って編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。
- (9) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部がおこなう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。

3. 掲載

- (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
- (2) 紙代、印刷費および最初1頁の組版費は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後におこなう。論文の長さが超過した場合、超過料を別途に申し受ける。
- (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療器具の使用などにかんする研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。

4. 別刷

実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

編集委員： 石神 襄次 前川 正信 宮崎 重 新谷 浩
 園田 孝夫 友吉 唯夫 吉田 修 (主 幹)

泌尿器科紀要 第31巻 第10号 1985年10月25日 印刷 1985年10月31日 発行
発行 吉田 修 顧問 加藤 篤 二 発行所 泌尿器科紀要刊行会
〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室内 電話(075)751-3327(直通)
印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
